

4. まとめ

雪等による事故等には、次のような特徴があることが分かりました。事故等防止に向けてのポイントと共に示します。

○ 事故等の傾向

- 気象等の自然現象を要因とする事故等のうち、雪及び融雪を要因とする事故等が最も多く、豪雪地帯等だけではなく少雪地域でも発生する。
- 雪等による事故等の約9割は「列車脱線事故」で、そのうち約9割が乗り上げに伴い発生しており、乗り上がった対象物は「抱き込み雪」と「踏切圧雪」が最多であった。
- 「踏切圧雪」に乗り上がった事例では、踏切道を通行する自動車等による雪の踏み固めが関係しており、前日からの降雪量が20cm以上、前の列車との間隔が10時間以上の事例が多かった。

○ ヒューマンファクターや組織的要因について

- 事故等にはヒューマンファクターや組織的要因が関係している場合があり、雪等への乗り上げによる事故では、そのうち約4割が除雪に関するヒューマンファクターや組織的要因が関係していた。
- これらは、個人又は組織としての状況判断ミス、あるいはルール等の不備の少なくとも一方が関与し、状況の確認不足・経験則からの誤判断等により適切な除雪が行われず、除雪の要否や運行可否判断の客観的基準・条件が社内規程にない、などがある。

【事故等防止に向けてのポイント】

あらかじめ…

- 豪雪地帯等や過去に発生した雪等による事故等の態様を把握する。
- 降積雪時における路線・踏切等の除雪や運行規制等の体制と、それらを実施するための客観的な判断基準等を定める。

降積雪時は…

- 路線や踏切等の、雪の状況を適切に把握する。
- 制輪子と車輪の間への雪氷等の介在によるブレーキ力の低下に注意し、適切な対策をとる。

これから冬期を迎えるにあたり、本ダイジェストで紹介している事故等の特徴や事例を参照していただき、今一度、雪による事故等の防止に向けた対策を確認し、進めていただけることを期待します。

事故防止分析室長のひとこと

大雪や降積雪は地域によってはまれであり、少雪地域の鉄道事業者や路線では雪害対策の経験がない、又は極端に少ない可能性もあります。経営資源が限られている中、雪害などの事態に対して具体的な体制を構築することは難しく、負担も大きいことと思いますが、事故等が再び起きれば、社会的に大きく影響することも考えられますので、本ダイジェストで紹介した鉄道事故等の分析や具体的な事例等もご参照いただき、「計画運休」を含めた体制構築がより進み、鉄道の安全安定輸送を確保されることを願っています。

〒160-0004
東京都新宿区四谷1丁目6番1号
四谷タワー15F
国土交通省運輸安全委員会事務局
担当：総務課 事故防止分析室

TEL 03-5367-5025
URL <https://jtsb.mlit.go.jp/index.html>
e-mail hqt-jtsb_bunseki@gxb.mlit.go.jp

「運輸安全委員会ダイジェスト」に関するご意見や、出前講座のご依頼をお待ちしております。

